

個別最適な学びについて

学校と正反対の学びの場を作ってみたら

東京大学先端科学技術研究センター
個別最適な学び 寄附研究部門
シニアリサーチフェロー
中邑 賢龍

ギフテッド教育や
インクルーシブ教育が話題になっているが、
実は矛盾する要素がある

ギフテッド教育は分離を求める
インクルーシブ教育は
特別支援教育の統合を求める

ギフテッド教育や特別支援教育は
「個別最適な学び」を追求するものであるが、

それはインクルーシブ教育と矛盾するのか？

分離して実施するしかないのか？

個別最適な学びは障害児やギフテッド児だけのもの？

全ての子どもに「個別最適な学び」が必要では？
その方法は？

特別支援教育は必要なのか？

ギフテッド教育は必要なのか？

インクルーシブ教育は必要なのか？

適性処遇交互作用

(ATI: aptitude-treatment interaction)

Cronbach, L. J. (1957) :

学習成果が適性と処遇の組み合わせによる効果として現われること。ATIでいうところの適性とは、狭義の適性である知能に限定せず、性格、態度、動機づけ、認知スタイルなどに加えて、性別、社会階層、民族的背景、教育歴といった検査による測定になじまないものまでを含む、学習成果に影響を与えうる個人差要因を指す。

引用：

<https://kotobank.jp/word/%E9%81%A9%E6%80%A7%E5%87%A6%E9%81%87%E4%BA%A4%E4%BA%92%E4%BD%9C%E7%94%A8-2099836>

国連が求めているインクルーシブ教育とは？

UNESCO Guidelines for Inclusion では、障害のある人が一般的な教育制度から排除されない「インクルーシブ教育システム」の確立を締約国に求めている

障害の有無で分けられる日本の特別支援教育への批判（誰もがニーズがあれば特別な教育を受けられるべき）

通常教育が障害のある子どもの参加を前提に設計されていない

「インクルーシブ教育は、多様な子どもたちがいることを前提とし、その多様な子どもたち（排除されやすい子どもたちを含む）の教育を受ける権利を地域の学校で保障するために、教育システムそのものを改革していくプロセス」（野口晃菜：

<https://news.yahoo.co.jp/byline/noguchiakina/20220910-00314466>)

特別支援教育の課題

居住地域と離れた特別支援学校に通学することの問題

特別支援教育のゴールが福祉就労になって最終的には分離される

インクルーシブな就労とは？

特別支援教育は本当に効果があるのか？

通常教育の課題

- 取り残される現状の教育にマッチしない子供達
学習のつまずき、ギフテッド
誰もが学べる複数の場所があればいいのでは、
- グローバル教育・STEAM教育・プログラミング教育などが話題になるが、その裏で子どもの能力が先進国では低下
生活をベースにした学びの欠如
- Web 3時代にマッチした教育の欠如
- 変わらない安定した学校と余裕を失う教師

実生木

個別最適な学びは、それを子どもに提供することが重要なのではなく、

子どもがその特性を発揮できる最適な環境が重要なのでは？

型にはめられた教育の結果

指示には正確に従える大学生

自由にやれというとならない大学生

大人の決めた賢さを目指した結果・・・

国際社会から遅れ始めた日本

今の学びに疑問を抱く中高校生
不登校・不適応へ
ゆる過ぎると会社を辞める若者

今の学校教育を根本的に変える必要性
あるいは、
学校教育を補完する新しい教育の必要性

枠から抜けだしにくい教育現場

学習指導要領の縛り

入試の縛り

安全性の縛り

枠がインクルーシブ教育を阻害する

公教育に馴染めない子どもたち

- 「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(令和2年度)によると、小中学校不登校児童・生徒数は19万6127人(小学生では全児童の1.0%、中学生では全生徒の4.1%)
- 2013年度から増加傾向
- 2018年12月日本財団発表
中学校の不登校生徒数は約36万人 (中学生の10人に1人)
- 不適応児童を発達障害として治療しようとする社会
彼らの個性・特性を潰す教育になってないか？

国際社会から取り残される子どもたち

- 型にはまった教育 レジリエンスの低い、創造力の乏しい子ども
- 受験のための学びの中でリアリティの欠けた子ども
- 生活経験の乏しい子ども
- 管理された安全安心・ユニバーサルデザイン社会の中で育つ子どもの弱さ
- 英語ができて国際社会では通用しない

受験塾ではなく、
学校以外の教育の場の必要性があるのでは？

学校と反対の教育を考えてみた

- 目的なし
- 教科書なし
- 時間割なし
- 協働なし

- 計画性なし 突然・偶然

東大先端研の個別最適な学びプログラム

LEARN (<https://learn-project.com/>)

Learn Enthusiastically, Actively, Realistically, Naturally

- 生活をベースにした学びの場
- 治療よりも「それでいいのだ」の教育
- ICTを活用した能力補償
- 学校では実施しにくい学び
- 既存の評価軸を離れて必死に何かを追い求める子を応援する
- 目的なし、教科書なし、時間割なし、協働なし
- 公教育との併存を目指す
- 内容の異なる6つのプログラム

LEARNのポリシー

- 豊かな個性の伸長は他者との競争ではなく、
個を否定しない個のペースを担保できる場所が必要
- 学校の一斉指導は重要だが、それとは別に個別最適な学びの場が必要
- 受験勉強が学びの中心にある社会では
リアリティやレジリエンスを育てることは容易ではない
無計画・無目的な学びの必要性
- 生活から切り離された本やWeb上の学びから生活の中での学びへ
- 社会のブラックボックス化が進行する今だからこそ
ブラックボックスを開く学びへ
- 辛さ苦しさに耐える学びだけでなく、なんだか面白そうな学びも
- 教育効果はすぐには期待できない学びの提供
- 努力してもできずに自信を失い学びの機会を逃す前にICTを活用して能力補償

LEARNプログラム

1) LEARN ONE 成績不問のスカラシップ

2) LEARN with Porsche (<https://learn-project.com/2798/>)

学びに自信のある子ども向けのプログラム。日常生活に中のブラックボックス化された部分に気付く体験を通じ、学び方、生き方、考え方を見直すきっかけとなるプログラム

3) LEARN with NITORI

学びに意欲や自信を失った子ども向けのプログラム。生活の中にある活動から学びの楽しさに気づくプログラム。1年間10都道府県、5年間で全都道府県を回る予定。

4) LEARN in FOREST 知的障害・重度重複障害児とのコミュニケーション

5) LEARN in Public Schools

自治体（広島県・福島県・渋谷区）・学校との連携



LEARN

	アクティビティプログラム	実施場所	参加者数		申込者数	
			子ども	保護者 / 大人	子ども	保護者 / 大人
with NITORI	ガラス芸術好き集まれ！	北海道 小樽市	8	7	11	10
	サクランボの秘密を科学する	北海道 余市町	9	9	11	11
	飛行機で電気がない場所に降り立ったら？！	長野県 軽井沢町	22	14	41	34
	子どものアルバイト体験 ～自分で働いて晩ご飯を食べよう～	宮城県 五ヶ瀬町	31	12 *学生スタッフ11名	17	14
	体育館にこのソファは何台置けるか？	広島県 熊野町/吉浦町/新涯町	17			
	對龍山莊プログラム～日本の建築・庭園・文化・歴史を考える2日間～	京都府 京都市	23	8	35	14
	氷で火を起こせ	北海道 帯広市	7		12	
	アルバイトって何？	大阪府 大阪市	7	1	12	1
with Porsche	夢に向かう力を引き出すプログラム	北海道	10		157	
ONE 奨学金による活動プログラム	1週間の家出をしてアルバイト体験をする旅	日本旅	6 *他53名家出準備中		59	

●生活をベースにした学びの必要性

- ・特別でなくてもいい
- ・日々の繰り返し
- ・宿題にしやすい

例 買い物 300円でトマトを2つ買ってきて

●誰がいつ来ても学べる場
インクルーシブ教育の実現

- 目的が曖昧
- マニュアルが要らない
- 時間割が緩やか
- 一人でもできる

例 家具を磨く

- 活動の中で自然に子どもの苦手感を評価する場
- ・どんな指示なら通りやすいか？
- ・課題変更に対応できるか？
- ・違う課題のどちらを選ぶか？
- ・他の子どもとどう関わるか？
- ・どんなレポートを提出するか？

●受動的活動から能動的活動へ

- ・ 放っておく
- ・ 指示は最小限に
- ・ 大人がモデルを見せる

例 働くプログラム

<https://learn-project.com/2819/>

●マニアックさを活かす学びの場

- ・ 趣味が通じる
- ・ 専門性の高い大人

例 歴史プログラム
昆虫採集

<https://learn-project.com/2834/>

- ブラックボックスを開く
- ・プロセスの可視化

例 壱岐プログラム

<https://learn-project.com/5549/>

- ワクワクするテーマとシナリオ

- ・ 非日常
- ・ 偶然を生み出すシナリオ

例 ポルシェプログラム

<https://learn-project.com/2798/>

東京プログラム

<https://learn-project.com/6154/>

家出しないか？

<https://learn-project.com/6162/>

- 親も一緒に学べる場の必要性

- ・親とLEARNの考えの解離を解消
- ・理解を求めて共に子どもを支えていく必要性
- ・親の協力なしには難しい
- ・託児所や学童にならないようにする必要性
- ・親との作戦会議

ICTは時間と空間を超えた学びを実現する

ICT化で生まれる学びの課題

- ICTツールは読み書きや思考の共有を容易に
- アクセシビリティの確保で、個別最適な学びや協働的学びも容易になるが、、、
- 効果的な反面、想定外のこと（脱線）が起こりにくい
- 鉛筆でノートとタブレットでコピーの違いは？
- 文字が残るから覚える必要がない
認知・記憶への影響
- タブレットから目を離さない子どもたち
他児童に興味がない
- 自由な無駄なインタラクションの欠如

皆が同じである 必要があるか？

不公平を前提した
違いを楽しむ
新しい社会制度設計が必要

スマホやタブレットが広げる社会

中邑賢龍・近藤武夫（監修）

健康ライブラリーイラスト版 発達障害の子を育てる本 ケータイ・パソコン活用編 講談社

中邑賢龍・福島智（編著）

バリアフリー・コンフリクト 東京大学出版会

中邑賢龍 AAC入門 atacLab

武長・中邑他 黙って観るコミュニケーション atacLab

中邑賢龍 育てにくい子は挑発して伸ばす 文藝春秋

中邑賢龍 どの子も違う 中央公論新社

AAC OnDemand <https://atac-lab.com/aac-ondemand/>

ATAC Conference & Webinar <https://atac-lab.com/>

